

## 鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議第12回会議 会議概要

【開催日時】 平成26年3月20日（木）13時30分～15時45分

【場 所】 鹿児島市役所東別館9階特別中会議室

【出席者】

○委員：石田尾委員長、岩橋委員、籠原委員、神野委員、北方委員、迫田委員、  
新留委員、末満委員、永山委員、藤井委員、文城委員、松田委員、南委員、  
山田委員

（欠席：清水委員）

○モデル地域：中名地域コミュニティ協議会 今村会長、福永事務局職員  
八幡校区コミュニティ協議会 和田会長、山口事務局職員  
平川まちづくり協議会 鬼丸会長、今原事務局職員

○事務局：圖師市民部長、平田地域振興課長、益田地域振興課主幹 ほか

【会次第】

1. 開会

2. 報告事項

(1) 第11回会議について

3. 協議事項

(1) モデル事業段階Ⅰ「設立検討から設立まで」の検証・評価とりまとめの確認について

(2) モデル事業段階Ⅱ「設立から地域コミュニティプラン策定まで」の検証・評価  
について

(3) 平成26年度コミュニティビジョン推進事業について

(4) 平成26年度会議開催計画

4. その他

【会議の内容】

1. 開会

藤井委員の就任について事務局説明

2. 報告事項

(1) 第11回会議について

第11回会議概要について【資料1】により事務局説明

【質疑なし】

3. 協議事項

(1) モデル事業段階Ⅰ「設立検討から設立まで」の検証・評価とりまとめの確認について

モデル事業段階Ⅰ「設立検討から設立まで」の検証・評価とりまとめについて【資料  
2】により事務局説明

◎委員長

- ・ただいま、事務局からモデル事業段階Ⅰ「設立検討から設立まで」の検証・評価とりまとめの確認について説明をいただいた。何かご質問ご意見等はあるか。

○委員

- ・とりまとめを見て、良いんじゃないかということで拝見した。内容の確認だが、まとめられた3点のうち1点目、協議会を設立する意義を分かりやすく説明していく事が必要であるという部分に関わってだが、3つの協議会ができあがる過程で、地域が抱えている課題を今のままの体制では解決できないので新しい組織が必要であるという形で地域の合意形成を図っていくということ。例えば高齢者が一人で暮らして生活のアクセスが難しく大変だというような困難を克服するためには、みなさんの協力が必要で新しい組織が必要ですよということで、このまま行くと困っていることがますます困ったことになるというような説明。住みやすい地域を作ろうということで前向きの明るい方向での説明の2つの方向があると思うが、3つのケースの場合はそのどちらに力点を置くとその合意形成が図りやすかったのかがもし分かればというのが1点。協議会を設立する意義を説明するときはどういうふうに説明するかということです。それから2点目は今のまとめとは関係ないのだが、最後の段落の1つ上のところに「次に、地域の設立準備に対する支援にあたっては」という文章があって、「地域の実情に対応できるマニュアルの作成や」と書いてある。3つのケースの場合に市が提示したマニュアルをこう改善するともっといいのではないかというのがもし具体的にあれば示してほしいというのが2点目。内容の確認です。

●事務局

- ・3つのモデル地域においては、やはり地域の抱える課題、その地域がこれまで形成されたコミュニティの過程というのが違うので、例えば平川、中名については山があり川があり海がありという自然豊かな地域であるが、その一方でやはり高齢化の問題、空き家対策の問題といったことがあったかと思う。八幡の場合は街の中心部にあるので、そういった事柄がない反面、地域とのつながりが希薄化しているというのが大きな課題であったかなと思う。これは、町内会が単独で課題を解決すべきものではなく、やはり小学校区という広いエリアの中でいろいろ知恵を出し合いながら、人材の育成や発掘を含めた取組ということが必要ではないかという説明をし、3モデル地域には協力をいただいたところである。それから、マニュアルについては基本的な取組マニュアルといったものは示したが、やはりそれぞれの地域の実情といったものによって、例えば規約のあり方にしろ、予算、事業計画のあり方にしろ、私どもが示した基本的なマニュアルをどんどん改正を加えながら、それぞれの地域に合うものを作成していただいたと考えている。これは、その都度変わっていくので、どの地域のものがよりモデルに近いということとは言えないと思う。拡大期においては基本的なマニュアルを示しながら地域に入って、私ども職員、コーディネーターが地域の皆さんと話を進める中で、より良い形にマニュアルも育っていくのかなと考えている。

○委員

- ・マニュアルに関連して、規約と年間計画の立て方、予算の組み方というのを前回拝見した時に、3つが重なっている部分とちょっと違っている部分がある事に気付いた。

それで、かなり重なっている近い形で作られている規約なり予算の立て方なりがあったので、これは3つの地域が作業をやりながら横の連携をとられたのかどうかということが気になった。今後たくさんになった時どういう形で連携できるか分からないが、それぞれ同じような問題を抱えているのだとすると、各協議会ごとに進める過程で横に横断的につながりがあるというのが意味があるのかな、あるいはそれをどこかでしたのかということも思ったので、拡大期にそういったことも考慮しながら取り組んでみたらどうだろうかと思う。

◎委員長

- ・その他何か気付いた点があるか。特にないようなので、【資料2】に示してある内容については委員の皆さんに確認をいただいたとしたい。

(2) モデル事業段階Ⅱ「設立から地域コミュニティプラン策定まで」の検証・評価について

- ①モデル事業段階Ⅱ「設立から地域コミュニティプラン策定まで」の検証・評価について【資料3】～【資料8】により事務局説明  
【質疑なし】

◎委員長

- ・本日の会議の大きな狙いは、各モデル地域ごとに段階Ⅱの検証・評価シートの説明を受けて質疑を行うということで、中名地域コミュニティ協議会、八幡校区コミュニティ協議会、平川まちづくり協議会の皆さんに出席をいただいている。まず、各協議会に説明をいただき、それを受けて委員の皆さんでの意見交換を行いたいと思う。中名、八幡、平川の順に、検証・評価シートについて事務局からの説明、モデル地域からの説明を受けていきたい。

- ②中名地域コミュニティ協議会の検証・評価シートについて、市及び地域コミュニティ協議会長から説明。各委員から質疑。

- ③八幡校区コミュニティ協議会の検証・評価シートについて、市及び地域コミュニティ協議会長から説明。各委員から質疑。

- ④平川まちづくり協議会の検証・評価シートについて、市及び地域コミュニティ協議会長から説明。各委員から質疑。

※②③④の内容及び【資料5-2～-4】【資料6-2～-4】【資料7-2～-4】については、各モデル地域の内部事情等を含むことから非公開

◎委員長

- ・モデル地域ごとに段階Ⅱの市、モデル地域の検証・評価シートについて説明をいただいた。次回の第13回の会議までの間に、私たちはそれぞれ検証・評価として資料4

の作成を行うことになる。作成にあたって、確認しておきたいことはあるか。事務局から説明もあったが、この検証・評価シートを作成するにあたっては、単に良かった悪かったとするのではなく、各項目について、市の働きかけ取組がどうであったか、モデル地域の取組がどうであったかを踏まえて拡大期においてさらにどのような取組が望まれるかということをもとめてほしい。各委員におかれては作業を進めてほしい。

(3) 平成26年度コミュニティビジョン推進事業について

平成26年度コミュニティビジョン推進事業について【資料9】により事務局説明

◎委員長

- ・事務局より説明を受けたが、何か質問はあるか。

○委員

- ・補助の方が27年度から地域振興課の方に移っていくということだが、生涯学習課からあった補助についてはどうなるのか。

●事務局

- ・25年度に入った段階で3モデル地域に校区公民館運営審議会はなくなった。27年度に設立する20校区もモデル地域と同様の扱いと考えている。

(4) 平成26年度会議開催計画

平成26年度会議開催計画について【資料10】により事務局説明

【質疑なし】

4. その他

【特になし】